

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771400484		
法人名	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団		
事業所名	白鳥荘グループホーム「華の家」		
所在地	大阪府箕面市3丁目5番50号		
自己評価作成日	平成22年1月16日	評価結果市町村受理日	平成22年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771400484&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

24年前に特別養護老人ホームの職員寮として建てられましたが入寮者が少なくなり、7年前に在宅でのケアの継続ができれば認知症の進行をおくることができるのではないかと、との必要性から地域で第1号として始まったグループホームです。平成19年3月より共用型のデイサービスも行っています。地域の方との交流の機会が多く、老人会や様々な行事に参加させていただいたり、こちらの行事等に来ていただいています。民生委員の方を含めた地域ボランティアによる月1回のお茶会も行っています。隣接した特別養護老人ホームのクラブ活動への参加もあり、華の家の利用者の方々は日々ゆつくりと穏やかに過ごしておられます。提携病院だけでなく、近くのクリニックの往診もあり、職員として看護師もいる為、健康面でも安心して過ごしていただいています。夜間の緊急時には隣接の特養からの応援体制もできています。利用者の方一人ひとりに寄り添い、その人らしい幸せな生活ができるよう、職員が力をあわせて努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大阪社会福祉事業団を母体を持つ当該ホームは、利用者を取り巻く家族、職員、地域の方々、かかりつけ医など全てが1つになり寄り添う介護に取り組んでいます。居室のドアや廊下には手すりを付け、できるだけ自力で歩けるようにしたり、トイレの扉を赤色にすることでトイレの場所が分かり、不安をなくするなど自立に向けた支援がなされています。また、リビングは明るく皆が自然と集まり、利用者同士の助け合いや会話する様子が見られ、食事でも利用者の目線になって食べやすいようにテーブルの高さを変えたり、1日車椅子で過ごすのではなく椅子に移乗して皆と同じ目線にするなど利用者の気持ちになってのケアが色々な所に見受けられます。日々、地域との交流を楽しみ自立支援に向けて取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関と事務所に掲示。年度初めにケアスタッフ会議にて職員全員が共通の認識をもつようにしている。	職員から理念について意見や思いを聞いたものを管理者がまとめました。みんなの思いを込めた理念を毎年作ることで意識付け、振り返る機会を持っています。また、ケアスタッフ会議で話し合い、玄関や事務所に掲示しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回に地域の老人会参加や月1回地域のボランティアによるお茶会の実施、地域での行事に参加する等日常的に交流している。	自治会に加入しています。回覧板や自治会長から情報を得て、秋祭りなどの行事および、2か所の老人会や地域の敬老福祉大会に参加し中学の吹奏楽部による演奏を楽しんでいます。また、ホームにボランティアが開催するお茶会や老人会の方にお花見に来てもらうなど多くの交流する機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた地域の方々の、認知症介護における相談を受けたり、自事業所だけでなく、隣接する特養への見学を勧める等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において評価の報告等を行い、運営推進会議の会議録を申し送りノートに掲示している。ケアスタッフ会議等で利用者のケアについて話合際には運営推進会議での意見を参考としている。	家族や自治会長、認知症家族の会、老人介護者の会会長、市の職員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2カ月に1回、開催しています。参加者1人1人の意見や情報を頂き、ケアに活かすことができ有意義な場となっています。また、家族から会議の名前を「笑顔満会」と付けていただきました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議(2ヶ月に1回)に必ず出席してもらっており、その場で日々の取り組みや様子を報告している。日常も直接訪ねて行ったり、電話にて介護保険についての疑問や事故報告等を連絡して、指導や助言を受けている。	市役所に案内や会議録を持参しています。利用者も一緒に出向いて行き利用者状況を知ってもらったり、何でも相談できる関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常業務内にて職員にはその都度指導を行っている。	法人内の身体拘束についての研修に参加し、今後新任職員対象にした研修も予定しています。また、玄関のカギは施錠せずセンサーで対応しています。家族に説明し、職員はケア会議で話し合い理解し、利用者の状況を把握しながら見守りを怠らず鍵をかけないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常業務の中で各職員に指導し、防止に努めている。		

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をそろえて、全職員が理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、文書にて了解のサインと押印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設け、重要事項にその旨を記載し、入所時には必ず家族に説明している。又、苦情や相談について運営に反映すべきものであれば、運営推進会議にて報告し、反映させていく。	来訪時や運営推進会議、行事に家族の参加があり直接意見や要望を聞いています。意見などがあれば職員で対応策を話し合い、速やかな対応を心掛け家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行うケアスタッフ会議にて意見や提案を聞き、反映させている。	毎月のケアスタッフ会議で、必ず職員一人ひとり発言してもらい意見を聞いています。職員の思いや自由な発言が出来、提案の実現に向けて職員で話し合い取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所有する資格により給与設定している。又、個人のスキルアップの為、研修体制を整え、参加をすすめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりに適したと考えられる、法人内外の研修や隣接する特養での介護室研修、華の家内での研修等に参加し、学びを深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	箕面市のケアマネの勉強会に参加して、同業者との交流を深めたり、箕面市内のグループホーム連絡会にて勉強会等を企画し、サービスの質を向上させる取り組みに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の面接や、ケアプラン会議にて本人の気持ちや要望を確認し、本人の安心が確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の面接や、ケアプラン会議にて本人だけでなく、ご家族の気持ちや要望も確認し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の面接やケアプラン会議にて支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等を一緒に行う中で、利用者が職員に教える場面も日常の中で多々あり、暮らしをともにする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に本人と共に参加してもらい、職員と共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、入所前からのかかりつけ医に月1回受診を行っておられる利用者の方がおられ、ご家族の健康上の理由等で行けない際は、職員が付き添う等の支援を行っている。	毎月かかりつけ医の受診や行きつけの美容院に出かける事などを大切にしています。外出時に近隣の方などと立ち話をするなど馴染みの方との繋がりが継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立が予想される利用者はケアプランにて孤立しないように働きかけている。又行事等で利用者全員で催しものに参加したり、全員で外出する等、支援に努めている。		

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する特養をご利用の方はご家族を含めて退所後も交流を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン会議にて把握に努め、検討している。	ホーム独自のアセスメント表を利用して、利用者や家族から多くの希望や要望を聞いています。来訪時や担当者会議に家族の参加があり、直接意見を聞きながら意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時の面接で情報の把握に努めている。ケアプラン会議にも務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にて現状の把握に努めている。ケアスタッフ会議や申し送りノートで情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアスタッフ会議で話し合ったことを反映させながら、ケアプラン会議にて本人・ご家族・看護師と話し合い介護計画を作成している。	利用者や家族、かかりつけ医からの意見を参考に一人ひとりに合わせた介護計画を作成しています。全職員にケアプランについて白紙の用紙を配り意見を求めモニタリングをして、計画作成担当者は意見をまとめ再アセスメントし状況に応じた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し、更に、申し送りノートやケアスタッフ会議にて情報の共有をはかり、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族から要望があれば、柔軟な支援ができるように取り組んでいる。(ご家族に利用者の方と一緒に居室へ泊まっていたく等)		

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回、地域のボランティアの方の協力のもとに、お茶会にて、お茶の先生であった利用者の方に中心となってお茶会等、本人が楽しんで豊かな生活が送れるよう支援をおこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームのかかりつけ医の往診が月に2回あり、緊急時も連絡して指示を受けることができる。又、ご家族の協力のもとで入所前のかかりつけ医に月1回受診されている利用者の方もおられる。	利用前、今までのかかりつけ医が継続できることを説明しています。ホームのかかりつけ医とは、24時間連携が取れており、また、検査などが必要になれば開院前に診てもらえ、待ち時間がないように対応してもらっています。訪問歯科は必要時には往診してもらっています。また、職員に看護師がいることで安心した日々の支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	直接伝えることができない場合は、申し送りノートを活用して看護師に連絡・相談を行い、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係性を構築している	現在入院者はいないが、過去入院者がいた際は、病院関係者と密に連絡を取り、経過や退院にむけた病院内での会議にも出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての方針はあるが、現在までグループホームでの看取りの事例はない。重度化した場合は、早い段階から本人やご家族と話し合いを行い、要望に沿った支援ができるように努めている。	入居前、看取りについてホームの方針を家族に説明しています。ホームでの対応が困難な状況になれば法人の特養や他の施設に申し込みを勧めるなど行っていますが、家族の希望があれば、今後の取り組みとして勉強会や研修を重ね支援したいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の研修に、職員全員必ず1回は出席、新規採用者に関しては個別で研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、昼夜を問わず利用者が避難できるよう地域のボランティアの方にも参加していただき、避難訓練を行っている。地震、水害については、避難場所の確認のみを行っている。	年に2回、法人の特養と合同で消防訓練を行い、ホーム独自でも昼夜想定で、近隣の方に声かけしボランティアの参加のもと避難訓練をしています。また、法人特養にホームを含めた備蓄を用意しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己点検表にて各自が振り返りを行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするように努めている。	やさしい言葉使いを心がけ、利用者に応じた対応がなされています。管理者は不適切な対応などを見かけたら、その都度注意しています。また、個人情報の記録物は事務所のカギのかかる本棚やキャビネットに保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己点検表にて各自が振り返りを行い、はたらきかけるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己点検表にて各自が振り返りを行い、その人らしい暮らしができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己点検表にて各自が振り返りを行い、支援に努めている。ご家族の付き添いで、月に1回美容院へ行かれている方もおられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会にご本人の食べたい物を皆で調理してお祝いをしたり、利用者の方々とメニューを相談して、皆で調理を行う日を設けている。準備や片付けに関しては日常的に行っている。	御飯と味噌汁を利用者と一緒に作り、法人からの出来上がった副食の盛り付けや配膳、下膳、食器洗いなどを一緒にしています。行事での食事やおやつ作りは、利用者に希望を聞きながら買い物から一緒に行っています。また、利用者が食べやすいようにテーブルの高さを変えたり車椅子から椅子に移乗するなど利用者の立場になって考え支援しています。職員も同じテーブルに着き同じものを頂き、楽しい食事の時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重のコントロールの為の食事量の調節や、トロミの使用等で、一人ひとりに応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行うようにしている。		

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンに応じた方法で排泄の支援を行っている。	トイレの扉を赤色にしてわかるような工夫やパッドやリハビリパンツをできるだけ使用しないように職員で話し合い、利用者のタイミングや状況を把握しながら誘導や声かけをしてトイレでの排泄ができるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	プルーンジュースやヤクルト等を使用し、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を個人で振り分けているが、個人の希望や都合に合わせて、柔軟に対応している。	毎日準備して、週に3回は利用者の希望や都合に合わせて必ず入浴ができるようにしています。訪問理美容の後は必ず入り、毛染め後は専用のシャンプーを用意し、気持ちよく入ってもらったり、菖蒲湯やゆず湯など季節に応じた入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人になると不安で不穏になる方には、その時々に応じて、夜間、職員と一緒に横になってもらう等、個々に応じた対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を全職員がすぐに見れるように、ファイルして事務所においている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶の先生であった方には主催のお茶会を行ったり、裁縫の好きな方に服の修繕をして頂く等、一人ひとりにあった気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の協力を得て、外食や観劇等に出かけられたり、地域のボランティアの方を通じて地域の老人会や行事へ参加している。希望によりグループホームでも外食会を行っている。	法人のイベントやクラブ、地域や老人会の行事、近隣の神社など散歩に出かけ日常的な外出支援をしています。また、家族の協力も得ながら車椅子の利用もしながら出かけられるようにしています。	

白島荘グループホーム「華の家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分で管理できる方が居られないため、預かりとしているが、買い物の際お金を払ってもらおう等の支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者がいない為、実際には行っていないが、希望があれば対応する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべてのトイレの扉を赤色にして、トイレの場所がわかりやすいように工夫している。季節の行事の飾り付けをしたり、地域のボランティアの協力のもと、季節の花を飾り、季節感を取り入れている。畑での野菜作り等も行っている。	玄関に入ると職員が活けた季節の花が目を惹き、リビングではひな人形や行事の写真が飾られています。和室では、横になったりお茶会が開かれたり有意義に使われています。また、居室からリビングに行くまでの間に手すりを設けできるだけ独歩できるような工夫を行い、皆が集まる居心地のいいリビングになるようソファを配置するなどの工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置や畳の部分を活用し、居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力をおねがいし、使い慣れた家具や好みのものを個人の居室に置かせていただいている。	利用者と職員による手作りの表札が掲げられています。ベッドと洗面所が備え付けられ家族と相談しながら、仏壇やテレビ、筆筒などを持ってきてもらい孫の写真などを飾り居心地のいい居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっている。2階で上がる階段についても、可能な方は階段を利用してもらう等、安全面に注意しながら自立した生活が送れるようにしている。		